心配している人を安心させるために
日本公庫を伴走者に「大人のための防犯ブザー」を届けたい

老舗アクセサリー会社・ミレーヌを事業承継した平手秀典さん。愛知県警からミレーヌにオファーがあり、まったくの門外漢だった防犯グッズのデザインと販売を担当することに。チーム一同悪戦苦闘の日々が始まりました。

「パスケルでたくさんの人の心配を解消したい」と語る平手さん

父から事業を承継し、祖父の会社を統合「中小企業経営力強化資金」で基盤固めを

大手商社マンとして香港を拠点にビジネスに猛進していた平手秀典さん。その運命を大きく変えたのは、父親からの電話でした。「どうする?」と唐突に切り出す父。昭和 52 年創業のジュエリー小売業を営んでいた父が、事業承継の意思を打診してきたのです。インドネシアへの転勤が目前だった平手さんは、妻や上司に相談しつつ、悩み続けました。

「ジュエリーの問屋業をやっていた祖父、父。彼らがつないできた会社のおかげで私も育てられた。そして社員とその家族のことを思うと…飛び込むしかありませんでした」

在籍していた商社とは、ルールも雰囲気もかなり異なる世界、溶け込むまでにはある程度の時間を要したそうです。中小企業の事業承継者を対象とするセミナーをきっかけに「人生は自分のためだけにあるんじゃない」と家族の歴史や社員の生活を背負う覚悟を決め、平成 21 年社長に就任しました。

「祖父の会社のアクセサリー事業を統合することになりました。主軸事業であるミュージアムグッズは買い取りがほとんど。しかし、アクセサリーはシーズン性が高く、資金繰りに苦戦を強いられました。自己資金での対応が限界となり、緊張しながらも日本公庫へ飛び込んだのです。」

そこから名古屋中支店大橋雄志との付き合いが始まります。大橋は提出された事業計画書を熟読。事業内容の革新性から「中小企業経営力強化資金」での融資が決まりました。

「事業計画書とミレーヌの事業性を高く評価してもらえたのがうれしかったですね。自分たちのやってきたことが認められたという思いでした。社長になって日が浅い私は、大橋さんの『何かあったらいつでも言ってください』という言葉に非常に勇気づけられたことを覚えています」

愛知県警察本部直轄プロジェクト「大人の女性のための防犯ブザー」を受注

平成 29 年夏、ミレーヌはそれまでとはちがった事業をスタートすることになります。それは「大人の女性のための防犯ブザー」。

性犯罪の増加を防止するために、愛知県警察本部が主体となって、民間企業と大学の研究者に声をかけて「防犯ブザー開発チーム」を結成。ミレーヌはデザインと販売を担当することになったのです。

近年では泥棒など多くの犯罪件数が減少する中、唯一増えているのが性犯罪。防犯ブザーの使用により、犯罪行為者の約 87%が逃走するという調査結果がある一方で、女性の防犯ブザー所有率は 18%。女性が防犯ブザーを持っていれば、性犯罪から自分自身を守ることができるはずです。

「女性が持ちたくなるブザーを作ってほしいという提案に、うちの会社がお手伝いできるかもしれないと思いました」

平手さんが率いるデザイン部門は、女子高生や大学生にヒアリングを行いコンセプトを練ります。外出時に常に持っていないと意味がないため、ブザー以外の実用的なアイテムと組み合わせようということになり「防犯ブザーがついたパスケース」という商品企画にまとまりました。

大手アパレルブランドの商品製作を行っているパートナー企業と共に、何度も試作品をつくります。大人の女性のファッションに違和感がないように、思わず持ちたくなるような洗練されたデザインを心がけました。

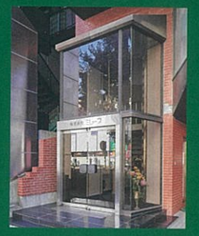
普段から持ち歩けるように、デザインにも工夫を重ねた

会社概要

株式会社ミレーヌ

代　表　者：平手（ひらて） 秀典（ひでのり）
所　在　地：愛知県名古屋市
創　　業：昭和 52 年 4 月
常勤役員：2 名
従　業　員：28 名
業　　種：アクセサリー、小物雑貨の卸売及び販売
公庫との取引：平成 28 年 2 月取引開始

事業内容
婦人用アクセサリー、ミュージアムやノベルティグッズの企画、販売。愛知県警監修の防犯ブザー「パスケル」を商品開発し注目を浴びる。



裏側にあるボタンを押すと、2 種類のブザー音を鳴らせる

「パスケル」がメディアで報道され注文殺到「ソーシャルビジネス支援資金」で販売にこぎつける

1 年間、試行錯誤を重ねた結果、誕生したのが女性のための防犯ブザー「パスケル（Paskel）」です。パステルカラーを基調としたパスケースを開くと、IC カードと小銭入れに。裏側のボタンは、長押しで緊急時用警戒音「助けて音」、3 回押しでソフトなメロディ音「困ってます音」が鳴らせます。

この功績に対して愛知県警から感謝状が贈られることに。その授与式には、多くのメディアが駆けつけ、パスケルのプレゼンテーションも取材されました。その模様が全国ネットの朝の情報番組でも紹介されると、直後から問い合わせが殺到。ネットショップに商品をアップしたところ、1 日で 4,000 個の注文が入り、サーバーがパンクしたそうです。

また、離れて暮らしている娘さんのためにパスケルを購入した親御さんなどから感謝の手紙が多数寄せられました。平手さんは、家族のことを心配している人がこんなにも多いことに驚きました。

「そこで商品のターゲットを『心配している人』にしたのです。娘の身の安全を案ずる両親、社員を心配する経営者などがパスケルをプレゼントする。それは『あなたのことを大切に思っています』というメッセージを伝えることにもなります」

開発から販売までの資金はミレーヌが負担することになり、平手さんは再度大橋に相談しました。社会貢献の商品ということから提案された「ソーシャルビジネス支援資金」を活用して、予定通り平成 30 年 2 月の発売にこぎつけました。

「パスケルは私たちの予想を大きく上回り、10 代～40 代の女性たちだけでなく、学校法人、障がい者や高齢者など、不安を抱えている人たちのサポートに貢献しています。私たちは、それ以外にも、機能×ファッション、日本の伝統工芸×ファッションなど、常識にとらわれない発想で新しい商品、カテゴリーを世の中に提供していきたいと思っています。10 年前、事業を承継したばかりで必死に仕事をしていた私を支えてくれ、それ以降もずっとサポートしてくれた公庫さんには、格別の思いがあります。これからもミレーヌはさらなる成長を目指して挑戦していきます。今までと同様、公庫さんには私たちの伴走者として力になってもらいたいと思っています」

マグネットコサージュは服に穴が開かず、花が垂れ下がらないので人気

担当者コメント

社会的に意義のある「女性のための防犯ブザー」ソーシャルビジネス支援資金を提案しました

初めて「パスケル」のプロジェクトを聞いた時は「これは世の中に必要な商品だ」と共感しました。普段持ち歩ける防犯ブザーが普及すれば、犯罪率は少なくなるはずです。犯罪を取り締まる愛知県警が主体となったプロジェクトという点も画期的で、社会的な意義のある商品ということで「ソーシャルビジネス支援資金」を提案しました。ミレーヌさまは、初めてのお取引からずっと担当させていただいていますが、美しいだけでなく機能性を持たせた、ユニークなアクセサリーや雑貨を次々と開発されていて、次はどんなアイデア商品が生み出されるかといつも楽しみにしています。

（名古屋中支店　大橋 雄志）